介護現場で使用される外来語に関する考察

―― 介護福祉士国家試験問題の調査から ――

安　藤　静　香

1．はじめに

日本とフィリピン・インドネシア間で交わされた経済連携協定（Economic Partnership Agreement；EPA[注1]）によって外国人介護福祉士候補者たちが来日し、現在その多くの人々が介護現場で働いている。彼らは4年間の就労を通して最終的には介護福祉士国家試験（以下、国家試験とする）を受け、合格しなければ帰国を余儀なくされる。そのため、本人も受け入れ側の施設も言語学習やその支援に懸命に取り組んでいるが、国家試験の問題内容は日本人と同様のものであるため、介護現場で働きながら勉強し、合格することは容易なことではない。EPAによって受け入れが開始された外国人看護師候補者に対する対応と同様に、介護福祉士候補者（以下、候補者とする）に対する日本語教育・学習支援は喫緊の課題となっている。

こうした背景を受け、筆者は介護現場で就労する外国人スタッフが抱える日本語学習上の問題点を探るため、予備調査で台湾人介護士に聞き取り調査を行った。そのとき得られたのは「外来語が難しい」という回答であった。台湾のように非英語圏出身の人々が英語など欧米の言語由来の外来語の理解に苦しむことは想像がつきやすい。しかし英語圏の人であっても、日本語化された発音の外来語は易しいものであるとは言い難い。意味が原語とは異なっている場合もあろう。介護の専門用語の中にどのような外来語があり、難しさがあるのか、その実態を調査することは今後さらに増える可能性のある候補者に対する日本語学習支援の一助になると思われる。そこで本稿では過去5回分の国家試験に出題された外来語を取り上げ、どのような語が頻出しているのか、数と種類、旧日本語能力試験[注2]における難易度を調査する。さらに、その語が文脈の中で持つ意味と伴われる語について傾向を探り、候補者を対象とした日本語教育現場でこれらの語を扱う際にどのような点に留意すべきかについて検討する。試験に出題される外来語は介護現場でもよく

使用されるものであるため、ここで明らかになった結果は介護現場での円滑なコミュニケーションのための学習支援にも役立つものになることが期待される。なお、本稿で取り上げる外来語とは外国語由来の語でカタカナ表記のものとし、和語や漢語との組み合わせである混種語も含めることとする。

2．候補者の介護福祉士国家試験受験について

近年、少子高齢化の深刻化による介護現場の人員不足が問題となっているが、EPAによって2008年からインドネシア人介護福祉士候補者（104名）、2009年からはフィリピン人候補者（217名）が来日し、介護現場で就労している。彼らは来日後、財団法人海外技術者研修協会（AOTS）または独立行政法人国際交流基金（JF）が実施する半年間の日本語研修を受け、その後全国各地の介護施設で働きながら、4年以内に国家試験合格を目指すことになっている[注3]。国家試験の合格者は就労の継続が可能になり、不合格者は帰国となるが、母国での模擬試験を行う救済措置が取られている。EPAによる候補者の受験機会は、看護師国家試験は滞在期間内に3回あるが、介護福祉士国家試験については1回のみと差し迫った状況にあり、受験においては介護の専門用語が候補者にとって障壁になると考えられる。

三枝（2009）は、国家試験の中の難解な専門用語や言い回しが候補者の負担となることを指摘し、日本語能力を測定するのであれば、どのような日本語が必要か調べた上でそれを測定するテストが用意されるべきで、国家試験の試験問題は別に考えるべきであると示している。また植村（2009）が指摘しているように、「ジョクソウ」「褥瘡（じょくそう）」「とこずれ」「床ずれ」のように同じ意味の介護用語でも音と表記の仕方が異なる場合があり、そのような膨大な量の学習は候補者たちにとって重い負担である。

2009年2月18日に日本語教育学会大会委員会は、国家試験による候補者の負担を軽減させる試みとして、「漢字ルビを振る」ことや「専門言葉の一部を分かりやすくするなど配慮を求める」といった、厚生労働大臣に当てた要望書を厚労省副大臣に手渡した。その結果、初めて行われたEPAの候補者を含む2011年度の国家試験（2012年1月29日実施）で、インドネシア人受験者94名中合格者35名、フィリピン人受験者1名中合格者1名と、合わせて36名の合格（合格率37.9%）が厚生労働省により発表された。実際に、2011年度の国家試験では難しい漢字にルビが振られたり専門用語の一部に英訳を付けた

りするなどの改正が試験問題に見受けられ、2011年度の看護師国家試験の合格率11.3%（受験者数415名合格者数47名）に比べて介護福祉士試験の合格率が22.6%高い結果となった。しかし、介護福祉士国家試験37.9%の合格率が高いとは言い難い。候補者が解答しやすい試験への改正は今後も考え得るだろうが、専門用語を含めた日本語学習は非常に重要な課題として残っている。

候補者が国家試験を受験する上で必要な語の知識に関する先行研究では、中川（2010）が漢語知識の調査を行っている。中川（2010）は国家試験に対応するだけの漢字力を身につけるには目安で合計550 ～ 600字を学ぶ必要があるとし、既存の漢字教材では国家試験に頻出する漢字を必ずしもカバーできていないことを指摘している。

漢語だけでなく国家試験で使用される「外来語」も注目されるようになっており、調査には日本語教育学会「看護と介護の日本語教育」ワーキンググループ（2010）や、遠藤（2012）がある。前者は国家試験の中の外来語を含む介護方法･用具などの介護用語を示す語群の分析を行い、「アームレスト」「アイソトニックゼリー」等は日本語の中の外来語としてあまり一般的でない語が多く、この種の語には原語のスペルをつけることで負担がやや軽減されることを指摘している。また、遠藤（2012）は国家試験の中の日本語の平易化について調査し、外来語について原語と意味が一致しているものについては，原語の併記が望ましいとしている[注4]。

しかし、これらはいずれも国家試験内容の改正の余地について調査しているものであり、国家試験の中の外来語を試験前の学習の段階でどのようにして候補者に提示できるかを調査しているものではない。国家試験の中で頻出する外来語を中心にして候補者への提示方法を探る調査は、管見の限りでは見受けられない。今後さらにEPAによる候補者は増加すると予想されるため、各科目における外来語の分析や調査は必要となるだろう。そこで本研究では、国家試験の中のある一科目で頻出される外来語及び混種語の種類や難易度について調査し、日本語教育現場においてこれらの語を扱う際にどのような点に留意すべきかについて検討する。

3．調査：国家試験問題の中の外来語

3－1　対象と方法

調査対象は2007年から2011年までの介護技術という科目の国家試験問題で

ある。2011年までの国家試験の出題範囲は、社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論、リハビリテーション論、社会福祉援助技術、レクリエーション活動援助法、老人・障害者の心理、家政学概論、医学一般、精神保健、介護概論、介護技術、形態別介護技術の13科目である[注5]。

介護技術の科目は他の科目に比べ問題範囲が広く、実際の介護現場に関わる利用者とのコミュニケーションの仕方や様々な介助に関する問題が多いため、対象とした。この科目は介護の基本技法とトイレや風呂場等の各場面における援助についての設問が多く、問いに対して回答群から正しいものを一つ選択する一問一答問題と、介護現場の日常を描いた長文を読解してから後の設問に答える事例問題が出題されている[注6]。

調査にあたっては以下の方法をとった。

①過去5回分の試験問題の文章から外来語（混種語も含める）をピックアップする。

②語の数と種類、また旧日本語能力試験を基準とした難易度を調べる。

③頻度の高い上位の語に関して、その語の持つ意味、ともに使われる傾向のある語を整理する。

さらにこれらの結果を踏まえ、候補者の外来語理解のために日本語教育側がどのような学習支援を行えるのかについて検討していきたい。

3－2　調査結果

介護技術で使用された外来語の種類は57語、混種39語の計96語であった。表1に過去5回分に出現した両語の数を示す（繰り返し使用されている語も含める)。

表1　2007から2011年の介護技術における外来語と混種語

	2007	2008	2009	2010	2011	合計
外来語	29	24	31	24	18	126
混種語	13	14	9	8	9	53
合計	42	38	40	32	27	179

3－2－1　使用されていた外来語の種類と数

過去5回分で最も多用されていた外来語は「トイレ」で、16回の使用で

あった。「トイレ内」「トイレ誘導」「トイレットペーパー」「ポータブルトイレ」のように他の語と結び付いた語を合わせると29回になる。次は「ベッド」13回の使用で、こちらも「ベッド上」のような語を合わせると、19回になる。「アセスメント」や「スプーン」等も各回で頻出されていた。なお、「ユニット」は計７回の使用であるが2009年でしか使われていなかった。同様に２回以上使用されているものの、過去５回分の内１回分の中でしか使用されていないものが11語見られた。

「シャワーチェアー」は１回分での出現数が少ないものの、2007・2009・2011年に出現し年ごとの出現率が高い。また、「マット」は「エアマット」や「電動エアマット」「マットレス」等のような語を合わせると合計で７回使用されており、2007 ～ 2011年の全てに使用されている。

1)「トイレ」2)「ベッド」3)「ケア」4)「マット」5)「シャワー」6)「サービス」7)「アセスメント」は、これらの外来語と漢語が結び付いた混種語が出現しており、それらと合わせると全体的に頻出していることが分かる。なお、過去５回分の外来語42語の内、１度のみ使用の外来語は計27語と半数以上である。

まず、表２に過去５回分に出現した外来語及び混種語の全てを示し、次に頻度の高かった上位10語とその外来語と漢語が結び付いた混種語のグループを表３に示す。

表２　介護技術で使用されていた外来語及び混種語

10回以上の語	トイレ(16)、ベッド(13)、ポータブルトイレ(10)
5回以上の語	ユニット(7)、アセスメント(6)、ベッド上(6)、スプーン(5)
2回以上の語	デイケア(4)、シャワーチェアー (3)、リズム(3)、レクリエーション(3)、訪問介護サービス(3)、ケア(2)、口腔ケア(2)、電動エアマット(2)、マットレス(2)、エアマット(2)、シャワー (2)、シャワー浴(2)、サービス(2)、ペース(2)、リハビリパンツ(2)、ガーゼ(2)、ソファ (2) 、連絡ノート(2)、ハイムリック法(2)、意識レベル(2)、筋力トレーニング(2)
1回のみ	トイレ内、トイレ誘導、トイレットペーパー、ベッド柵、ケアプラン、ケアマネージャー、サービス提供責任者、精神的ケア、施設サービス、マット、バスマット、シャワーボトル、マッサージ、エネルギー、ショートステイ、タオル、テーブル、プライド、アームレスト、インフルエンザ、カンファレンス、スペース、ズボン、デイルーム、トータルバランス、メンテナンス、カラオケ、

	テレビ、バス、パターン、バランス、ホール、マスク、カーテン、ケースカンファレンス、リフト、ピーナッツ、プリン、ベルト、パスワード、ケース、シャツ、シンク、ロフストランド・クラッチ、再アセスメント、心臓マッサージ、一時救命処置(BLS)ガイドライ

表３　頻度の高かった外来語のグループ

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	合計
1) トイレ	3	3	5	4	1	16
トイレ内	0	1	0	0	0	1
トイレ誘導	0	1	0	0	0	1
ポータブルトイレ	4	1	1	3	1	10
トイレットペーパー	0	0	0	0	1	1
						29
2) ベッド	1	2	3	6	1	13
ベッド上	4	0	0	0	2	6
ベッド柵	1	0	0	0	0	1
						20
3) ケア	0	1	0	0	1	2
ケアプラン	0	1	0	0	0	1
ケアマネージャー	0	0	0	1	0	1
デイケア	2	0	2	0	0	4
口腔ケア	0	1	0	1	0	2
精神的ケア	0	1	0	0	0	1
						11
4) マット	0	0	0	0	1	1
マットレス	0	0	1	1	0	2
バスマット	0	0	0	0	1	1
エアマット	1	0	0	0	1	2
電動エアマット	0	0	1	1	0	2
						8
5) シャワー	2	0	0	0	0	2
シャワー浴	2	0	0	0	0	2
シャワーチェアー	1	0	1	0	1	3
シャワーボトル	1	0	0	0	0	1
						8

6) サービス	0	1	0	1	0	2
サービス提供責任者	0	0	0	0	1	1
訪問介護サービス	0	0	0	1	2	3
施設サービス	0	1	0	0	0	1
						7
7) アセスメント	3	1	1	0	1	6
再アセスメント	0	1	0	0	0	1
						7
8) ユニット	0	0	7	0	0	7
9) スプーン	0	2	2	1	0	5
10)リズム	3	0	0	0	0	3
レクリエーション	0	3	0	0	0	3

３－２－２ 外来語の難易度

介護技術で出現した外来語（混種語を含む）について、旧日本語能力試験に基づいた語彙レベルを測るウェブサイト『リーディング　チュウ太』で調査した。結果は表４の通りである。以下、本稿における語彙の難易度は、この旧日本語能力試験の基準に基づくものとする。

級外（34語）が最も多く、また１級２級の語彙は３級４級の語彙よりも多く見られる傾向があった。また、「その他」の中には、混種語の「サービス提供責任者」のように「サービス（２級）＋提供（１級）＋責任（２級）＋者（２級)」と一つの用語に対して３種類の級が含まれているものがあり、難易度の高い語が繋がっていることが分かる。混種語は特に「級外＋△級」が多いため全体的に語彙の難易度が高いという結果になった。級外の語には「留置カテーテル」「ストマ用装具」など、日本人でも普段聞き慣れない語があり、級外用語の理解が問題になると思われる。

表４　介護技術の外来語と混種語の難易度

旧日本語能力試験の語彙レベル	語の数（%）	例
級外	34語（35.41%）	例）マットレス、アセスメント
級外＋級外	7語（7.29%）	例）口腔ケア、食材リスト

級外＋２級	6語（6.25%）	例）ノンレム睡眠、筋力トレーニング
１級	3語（3.12%）	例）マッサージ、スペース
１級＋２級 ２級＋１級	2語（2.08%）	例）パジャマ姿 心臓マッサージ
２級	10語（9.6%）	例）リズム、エネルギー
２級＋１級＋２級	2語（2.08%）	例）訪問介護サービス、カロリー摂取量
２級＋２級	2語（2.08%）	例）意識レベル、書道サークル
３級	1語（1.04%）	例）カーテン
４級	9語（9.37%）	例）トイレ、ベッド、シャワー
４級＋１級	2語（2.08%）	例）トイレ誘導、ベッド柵
その他	18語（18.75%）	例）ストマ用装具（級外＋3級＋級外）

３－２－３　文脈の中で持つ意味と伴われる語の傾向

ここでは出現回数の多かった外来語及び混種語が文脈の中でどのような意味を持ち、また、どのような語とともに使われる傾向があったかについて整理する。さらに、これらの語を日本語教育の現場で扱う際にどのような点に留意すべきかについても検討していきたい。

取り上げる外来語と混種語は、頻出していた1)「トイレ」2)「ベッド」3)「ケア」4)「マット」5)「シャワー」6)「サービス」7)「アセスメント」とこれらに関連する混種語とする。これらを取り上げるのは、実際の介護現場に関わる利用者とのコミュニケーションの仕方や様々な介助に関わる語として優先度が高く、また介護現場での使用率も高いのではないかと判断したためである。

(1)介護技術における「トイレ」

介護技術で頻出していた「トイレ」は、（ｉ）場所そのものの意味（ⅱ）行為の意味に大別することが出来る。

表５　介護技術

「トイレ」が使用されている例文(ｉ)

年	問題文
	- まで～
2007	(1)「排泄は - まで行っていたが、間に合わないことが…」

2007	(2)「排泄のリズムを観察し、定期的に - まで誘導する」
2009	(3)「妻は腰痛を抱えながら昼夜を問わず⑤ - まで介助しているため、…」
2010	(4)「最近、訪問介護員が訪問すると、Fさんの - までの介助を妻はかろうじて行っており、…」
	-(に)誘導
2007	(5)「排泄のリズムを観察し、定期的に - まで誘導する」
2008	(6)「尿失禁があるのでリハビリパンツを使用し、職員が - に誘導している」
2008	(7)「朝食後の - 誘導は、よい排泄習慣につながる」
2010	(8)「 - への誘導は意図的に行わない」
	(場所)や(場所)
2010	(9)「 - や居室が分からなくなることがある」
2009	(10)「廊下や - に手すりを設置することについて話し合う」
	-で(の)排泄
2009	(11)「Mさんは① - で排泄することを強く希望し、妻の介助で② - まで移動し排泄ができている」
2010	(12)「安心できる言葉かけと態度で誘導し、- での排泄を継続する」
	その他
2010	(13)「移動は車いすを使用し、日中は - 、夜間はポータブルトイレで介助を受けながら…」
2011	(14)「一人で - に行かないよう伝える」
2007	(15)「日中の排泄は - で行い、…」

（ｉ）の場合は場所そのものの意味となり、助詞の範囲を示す「まで」や方向を示す「に」例示を示す「や」、行為の場所を示す「で」、「誘導」という語が後続する傾向が見られた。「誘導」は１級レベルと難しい語彙である。「誘導」という語は人や物をある地点や状態に導いていく意味で使われ、「トイレ」の語の後に「誘導」という語が伴うことによって、その混種語自体が場所そのものへ行くことの意味として表される。「誘導」という言葉自体は排泄介助（つまり排泄時の手助け）のみでしか出現していない。移動などの介助の場面では「移動」「移乗」と表現されており、「誘導」は使用されることがないため、「トイレ」とセットで示すことが必要である。

（ⅱ）の場合、(1)「 - に間に合わない」というのは、ただ単に場所の意味で使用しているのではなく、行為をすることそのものに意味を置き替えて

おり、「 - に間に合わない」は「失禁してしまう」に近いニュアンスになる。表6 (2)「 - に呼ばれて大変」は、「妻はFさんに - についてきてほしいと呼ばれて大変」という意味であるため、トイレがFさんの妻を呼んでいるわけではない。候補者にとってこの語自体が難しいものでなくても、「 - に呼ばれる」のように、後に続く語によって意味が分からなくなる、または誤って読み解く可能性が皆無ではないだろう。

表6　介護技術
「トイレ」が使用されている例文（ⅱ）

年	問題文
2009	「しかし、- に間に合わないことがあったり、…」
2010	「最近になってFさんの妻が、『夜、何度も - に呼ばれて大変。…』」

介護技術における「トイレ」の語彙レベルは４級と平易であるが、その後に続く語によって意味合いが変わってくることもあるため、候補者には「誘導」や「 - に呼ばれる」「 - に間に合わない」などのような連語的につながる言葉との学習が必要だろう。なお、「手洗い」「化粧室」「便所」のような類義語は過去５回分では記されていなかった。負担を減らすことも考慮して候補者には類義語を教える必要はないが、実生活には「手洗い」「化粧室」はよく使うことと、「便所」も方言のある地域では利用者が使うことにも触れておいたほうが良いと思われる。

ここで「トイレ」に関連する語として頻出している「ポータブルトイレ」についても触れたい。これは室内などに置いておくことができる簡易トイレのことで、介護現場では排泄介助の際に使用されることが多い。この語は級外であり、難易度は比較的高い語であると言える。ポータブルトイレは歩行に障害のある高齢者のために室内に置いておくものなので、「使用する」「排泄する(排尿する)」の表現とともに多く使用されている。「ポータブルトイレ」が「トイレ」と異なるのは、簡易のものであるために持ち運びができ、(10)のように「置く」という動詞が続く場合があるという点である。

表７　介護技術

「ポータブルトイレ」が使用されている例文

年	問題文
	使用
2007	(1)「夜間は - を使用している」
2007	(2)「 - の使用を禁止した」
2010	(3)「ベッドの横で - を使用して、…」
	排泄（排尿）
2008	(4)「朝食後に - で排泄を試みる」
2010	(5)「夜間は - で介助を受けながら排泄し、…」
2010	(6)「 - での排泄」
2007	(7)「昼間はベッド柵につかまりながら、- になんとか移り排尿するが、…」
	その他
2007	(8)「 - に腰掛けて、…」
2009	(9)「 - は小型で軽いものを選ぶ」
2011	(10)「室内に - を置く」

(2)介護技術における「ベッド」

「ベッド」は物そのものの意味で使用されており、４級レベルの語で語そのものの難易度は高くない。伴われる語は(i)位置を表す語や(ii)「腰掛ける」という動詞である。位置を表す語を含む例文を表８に示す。

表8　介護技術

「ベッド」が使用されている例文（ⅰ）

年	問題文
	端
2009	(1)「右片麻痺の利用者が、- の端に腰掛けている状態から…」
2010	(2)「 - の端に腰掛ける座位では、…」
2010	(3)「一定時間 - の端に腰掛けることを勧める」
	横
2010	(4)「 - の横でポータブルトイレを使用して、…」
2010	(5)「 - の横には汚れたおむつがそのまま置いてあった」
	その他

2009	(6)「利用者の身体状況に合わせて - の頭側を挙上する」

この結果から読み取れることは「端」や「横」といった位置を表す語が「ベッド」に伴われることが多いということである。高齢者が寝たきりの状態や身体に不自由がある場合にベッドの周りが生活の範囲となるために位置を表す語が「ベッド」に伴って使用されるものと考えられる。また、「ベッド上」という語も過去5回分で6回使用されており、位置を表す言葉「横」「端」「上」は「ベッド」と伴う場合が多い語として提示する必要があるだろう。

次に、(ⅱ)の場合の例文を表9に挙げる。

表９　介護技術
「ベッド」が使用されている例文(ⅱ)

年	問題文
	腰掛ける
2009	(1)「右片麻痺の利用者が、- の端に腰掛けている状態から…」
2009	(2)「 - に深く腰掛けるよう促す」
2010	(3)「 - の端に腰掛ける座位では、…」
2010	(4)「一定時間 - の端に腰掛けることを勧める」
	その他
2007	(5)「 - からの転落による骨折を予防するために、…」
2008	(6)「 - から離床することが困難となり、…」
2008	(7)「食事は - に運び、…」
2010	(8)「また、日中でも - で眠っていることが目立ち、…」
2010	(9)「Fさんは - に臥床(がしょう)している状態が多く見られるようになってきた」
2011	(10)「 - とエアマットの貸与を受け、日常生活は全介助である」

ベッドという語とともに使われる傾向のある動詞は「腰掛ける」である。介護技術ではベッドで横になっている状態から起き上がるまでの一連の動作の仕方を問題にしているため、この動詞が多用されるのだろう。また、ベッドや布団の上で「寝ている」状態を介護用語では(9)「 - に臥床している」と表現する。「臥床」は難解な語であるが、介護業界ではよく使用される言葉で介護福祉士のテキストなどにも頻出するため、ベッドとの組み合わせで

学習する必要がある。

(3)介護技術における「ケア」

「ケア」は全体の合計で2回の使用であるが、介護技術の中では単独で使用されるよりも、他の語と結び付く場合が多い。また介護業界での意味は明確に定義されておらず、難易度の高い級外の語彙である。

表10　介護技術
「ケア」が使用されている例文

年	問題文
2008	「爪及びその - に関する次の記述のうち、…」
2011	「妻の悲嘆への - はGさんの死後から行う」

「ケア」は『岩波国語辞典第７版』(2011)によると、①介護②世話③手入れ④管理の意味である。それに対し、『デイリーコンサイス英和和英辞典第７版』(2011)によると、英語の“care”は①心配②気苦労③関心事④世話⑤看護⑥監督⑦骨折り⑧配慮、注意、用心の意味である。

表10(1)は「手入れ」、(2)は「世話」もしくは「心配」が意味として近いと思われる。また、混種語の「口腔ケア」は口の中を手入れすることであるので、ここでのケアは「手入れ」の意味になる。「手入れ」という言葉は「介護技術」科目の中に出現しておらず、介護現場でもあまり使用されることはないため、(1)や「口腔ケア」の場合は「手入れ」ではなく「ケア」と外来語で表記しているものと考えられる。「○○ケア」のようにケアに伴われるものとして「デイケア」「精神的ケア」があり、「デイケア（１日の世話)」「精神的ケア（精神的な負担に対しての世話)」の意味になる。これらのように「ケア」は世話や手入れの意味で使用される場合が多い。また、介護技術科目では「(利用者の）お世話をする」と言う表現は見られず、介護現場でもあまり使用されないため、国家試験では「ケア」と表されていると思われる。

「ケア」と“care”は「世話」の意味で重なるところがあるが、「手入れ」と言う意味は英語の“care”にはなく、外来語の「ケア」の意味でしか使用されていないため、候補者には英語をまず提示し、その上で「手入れ」の意

味も追加で提示すると良いだろう。

(4)介護技術における「マット」

「マット」は過去5回分で1回のみ、「調理台周辺に部分敷きのマットを敷く(2011)」で使用されている。「マットレス」、「バスマット」、「エアマット」、「電動エアマット」のように「マット」に関わる他の語との組み合わせで頻出される傾向がある。これらの語は全て級外の語彙である。「バスマット」と「電動エアマット」は「使用」という語とともに使われている。「マット」は薄いものから厚いもの、小さいものから大きいものと様々なものがあり、使用用途も異なるため伴われる語は様々なものになるが、「使用」という語は「使う」意味であるため「マット」に伴われやすい語のようである。英語の“mat”は固有名詞であるためか意味もほぼ同様なので、英語表記で提示するか、もしくは実物を示して「マット」と発音すれば理解しやすい語であると言える。

表11　介護技術
「マット」に関連する外来語・混種語　例文

年	語	問題文
		使用する
2011	バスマット	「滑らない - を使用する」
2009	電動エアマット	「 - を使用している場合でも、…」
2010		「 - の使用を勧める」
		その他
2009	マットレス	「 - は柔らかなものにする」
2010		「身体と - との間にできた空間はそのままにした」
2007	エアマット	「 - は、臥床時の耐圧分散を図ることを目的としている」
2011		「ベッドと - の貸与を受け、…」

(5)介護技術における「シャワー」

「シャワー」は4級の語彙であり、平易な語だと言える。「シャワーチェアー」は風呂場で使われる高めの椅子、「シャワーボトル」は身体の障害によって風呂場まで行けない場合にベッドの上などで洗浄するためのお湯を入れたボトル、「シャワー浴」は風呂には入らずシャワーだけで済ませること

である。「シャワー浴」以外の語は物を表しているので「使用する」や「使う」といった動詞を伴うことが多い。

これらの語の中で注意すべきは「シャワー浴」という語である。「シャワー」は４級、「浴」が級外である。「浴」は「浴びる」の略であるが、「浴びる」という語を知らなければそれが略された語であると理解することが出来ない。「シャワー浴」を理解するためには「浴びる」という語も学習することが必要となる。

表12　介護技術

「シャワー」及び関連する外来語・混種語　例文

年	語	対象文
2007	シャワー	「－は、必ず介護職員自身の肌で温度を確認して使用する」
2007		「－は肩から足元へと十分に温めていくようにかける」
2007	シャワーチェアー	「－を使って自分のペースで行っている」
2009		「－の購入を勧める」
2011		「－を使用する」
2007	シャワーボトル	「－などを使って陰部洗浄をする」
2007		「週一回程度の－が認められている」
2007	シャワー浴	「Yさんの－については、浴室が狭いこともあり、…」

(6)介護技術における「サービス」

「サービス」は２級の語で、岩波国語辞典(第７版)によると、個人(客・来訪者)や社会や家族に対する、奉仕的な活動、また職務としての役割提供の意として定義されている。「奉仕」は同辞典で国家や社会や目上の者などのために、私心を捨てて力を尽くすこととなっており、介護事業は国家の介護保険によって利益を得ているため、「奉仕」と「サービス」の意はほぼ同じものであると思われる。介護業界では「奉仕的活動」と言う意味でとらえると分かりやすい。一方、英語の“service”は、デイリーコンサイス英和辞典(第7版)によると①奉仕②職務・公務・軍役・兵役③(役所などの)局、部、課④礼拝(式)⑤助力⑥世話⑦貢献⑧有益⑨給仕⑩修理⑪食器の一式⑫(汽車・船の)便⑬(郵便・電話・ガス・水道などの)公益事業の意である。「サービス」は英語の“service”と「奉仕」という意味で共通している。このことから、英語が理解できる候補者には「サービス」を英語で示した方が負担は

軽減されるだろう。しかし、外来語よりも英語のほうが意味の種類は多いため、“service”は場面によって意味が変わることに留意しなければならない。外来語の「サービス」の意味を知らなければ、国家試験で英語のどの意味を当てはめたらよいか候補者が戸惑う可能性がある。そのため英語よりも意味が縮小された「サービス」という外来語の使い方に留意する必要がある。
この語は出現した２回の両文に「利用」という漢語を伴う傾向が見られたため、ふたつはセットにして提示すると良いだろう。また、混種語の「訪問介護サービス」は施設ではなく介護員が自宅を訪問するサービスであるが、「週２回」という表現が３回中２回使用されている。この語に関しては、頻度を表す語とともに使われる傾向があることも補うと良いと考える。

表13　介護技術
「サービス」及び関連する外来語・混種語　例文

年	語	問題文
2008	サービス	「Hさんが現在利用している - は、…」
2010		「他の - の利用などケアマネージャーと相談して…」
2011	サービス提供責任者	「事業所の - に報告した」
2010		「週2回の - が計画された」
2011	訪問介護サービス	「調理と掃除の - を週2回利用している」
2011		「 - の『調理』を『入浴』に変更した」
2008	施設サービス	「 - に対する感想や要望などについて…」

(7)介護技術における「アセスメント」

「アセスメント」は難易度の高い級外の語である。試験問題で頻出しており、主要な用語であることがうかがえる。

表14　介護技術
「アセスメント」が使用されている例文

年	語	問題文
		質問項目での使用
2007	アセスメント	「健康状態の - に関する次の記述のうち、…選びなさい」
2007		「Hさんの - に関する次の記述のうち、…」

2007		「Nさんの－と介護計画に関する次の記述のうち、…」
2009		「Mさんの現在の状態の－に関する次の記述のうち、…」
2011		「現時点でのFさんの生活を－する際に、優先されるものを一つ選びなさい」
		その他
2008		「身体面、環境面などの－を行う」

外来語の「アセスメント」は岩波国語辞典(第７版)によると物事の総体としての量・価値の計算的評価である。一方、デイリーコンサイス英和辞典(第7版)の“assessment”は①財産評価②(収入)査定③賦課④割当(額)⑤評価、意見の意味だと記されている。

介護業界のアセスメントの意味は「利用者の生活における評価」だと考えられる。この語は利用者の名前を伴うことが多く、また「身体」「健康」「環境」などの「生活」に関わる語を伴う場合があるためである。この定義だと、英語と外来語の意味の「評価」という部分が重なる。「評価」は2級の語であるため、候補者が理解しやすい語であるとは言い難い。そのため利用者や高齢者のイラストなどを指しながら「(彼らの）今の具合を知ること」などのように平易な語で示すことで理解がしやすくなるのではないだろうか。

なお、「評価」という漢語は介護技術科目で使用されていない。しかし、「健康状態の確認を…（介護技術2011)」というように「確認」という語が、「Fさんの状況を把握した訪問介護の行動として…（同2011)」のように「状態を把握した」が「アセスメント」と似たような意味で出現している。こうした類似した意味の漢語との違いについても留意する必要があると思われる。

４．まとめと今後の課題

本稿では、国家試験に頻出する外来語を調査し、日本語教育現場でこれらの語を扱う際の注意点について考察した。過去５回分の国家試験の問題の調査により、介護技術で使用されたのは外来語57語、混種語39語の計96語であることが分かった。その中でも頻度の高い上位10語は４級４語、２級３語、級外14語あり、さらに、上位10語以下の頻度の少ない語は４級５語、３級１語、２級７語、１級３語、級外20語であった。級外の語が多いことから、介護技術の科目で使用される外来語は候補者にとって学習が難しいと考えられ

る。しかし、級外の語であっても「マット」のように実物を見れば理解しやすいもの、または“service”のように英語を示せば意味が分かりやすくなるものがあることが分かった。このように級外の外来語が必ずしも全て難解であるわけではないが、頻出している語そのものの意味は難しくなくても、伴われる語の難易度が高かったり、混種語になると難しい語になるものがあったりすることも明らかになった。そのため、特に漢語と組み合わされた外来語に注意する必要があるだろう。

今回は介護技術の科目（過去５回分）のみの外来語調査であるため、介護業界で扱われている外来語全てが明らかになったわけではない。介護技術の科目で使用されている外来語や混種語は96語（過去５回分）で、他の科目を合わせるとさらに膨大な量の外来語・混種語が出現していると予想される。その中でも、出現数が少ない下位の語を候補者に提示し、使えるように指導することは容易ではないだろう。しかしそうした語であっても介護現場で必要ない語であるとは必ずしも言えない。多くの外来語を学ぶことは候補者にとっても負担であろうが、教師側がともに使われやすい語を提示したり、混種語の場合は語構成を示したり、易しい語に言い換えたりしながら、理解がしやすい方法を提案できればその負担も軽減できるのではないだろうか。

今後は全ての科目に対象を広げ、使用されている外来語の傾向を探ること、既存の日本語教材で扱われている外来語との比較を行い、候補者に対する日本語教育現場で必要な外来語の教育についてさらに詳細な検討を行っていくことを課題としたい。

注

（１）2006年9月9日に署名された、日本とフィリピン間の看護師・介護士の受け入れ政策。

（２）「旧日本語能力試験2級・3級の語彙」とは、2009年まで採用されていた日本語能力検定試験を基準にして語彙の級分けをしたものである。級の判定には『リーディング　チュウ太』を用いた。2010年に日本語能力試験は改正され、級分けがN1、N2、N3、N4、N5と5段階となった。

（３）この就労は、あくまで日本の国家資格を取得するための準備期間の一環としての就労であるため、4年の就労のみで介護福祉士試験は受けない、ということは原則認められていない。なお、受け入れる施設側は、

一定の規模や職員数などの資格要件を満たした上で、半年間の日本語研修の費用の一部負担や、国家試験受験に向けた研修態勢の設備を義務づけられている。

（４）遠藤(2012)によると、例えばニトログリセリンnitroglycerinのnitroは英語話者はnaitrouのように発音するので「ニトログリセリン」と表記されたものとnitroglycerinとが一致しない。このような齟齬を防ぐために外来語には原語を併記することが望ましいとしている。

（５）2011年度からは新カリキュラム①人間の尊厳と自立、介護の基本、②人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術、③社会の理解、④生活支援技術、⑤介護過程、⑥発達と老化の理解、⑦認知症の理解、⑧障害の理解、⑨こころとからだのしくみ、⑩総合問題の10科目に変更されている。

（６）一問一答問題と事例問題の例を参考資料(7)に載せる。

参考文献

(1) 植村英晴(2009)「外国人看護・介護士候補者に対する日本語教育—外国人労働者政策の観点から—　介護需要とフィリピン系介護職員の状況」『2009年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.29-31

(2) 遠藤織枝(2009)「ＥＰＡによる外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れと日本語教育～国家試験に関連した動きと展望～　日本語教育学会ワーキンググループ(以下「ＷＧ」)について」『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.43-44

(3) 遠藤織枝(2012)「介護福祉士国家試験問題の日本語の平易化をめぐって—第23回・第24回試験からみた問題点—　日本語教育学会「看護・介護の日本語教育」ワーキンググループ　」〈http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000028hzr-att/2r98520000028i82.pdf〉(2012年4月29日)

(4) 椙本歩美(2007)「介護者送り出し国フィリピンの事情　—誰と介護を担うのか」『異文化介護と多文化共生　—誰が介護を担うのか—』pp.264-309

(5) 登里民子、栗原幸則、今井寿枝、石井容子(2009)「インドネシア人介護福祉士候補者を対象とする初級からの専門日本語教育研修プログラ

ム」『2009年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.176-181
(6) 中川健司(2010)「介護福祉士候補者が国家試験を受験する上で必要な漢字知識の検証」『日本語教育』147号、pp.67-80
(7) 日本語教育学会「看護と介護の日本語教育」ワーキンググループ(2010)「介護福祉士国家試験問題の日本語の難しさについて考えるための基礎資料（改訂版）－第21 回・第22 回試験の全問分析結果のまとめ(2010 年12月)－」
〈http://www.nkg.or.jp/kangokaigo/images/kisoshiryou-v2.pdf〉
(2012年4月29日)
(8) 野村愛、川村よし子(2010)「外国人介護士のための日本語読解学習支援システムの開発と評価」『2010年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.294-299
(9) 三枝令子(2009)「ＥＰＡによる外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れと日本語教育－国家試験に関連した動きと展望－　介護福祉士国家試験の分析」『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.52-54
(10) 宮崎里司(2009)「外国人看護・介護士候補者に対する日本語教育―外国人労働者の観点から―　外国人介護ヘルパーのための日本語支援教室―Policy Activism(市民参加による政策決定)型日本語教育の試み―」『2009年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.38-40
(11) 西尾実・岩渕越太郎・水谷静夫編(2011)『岩波　国語辞典第７版新版』岩波書店出版
(12) 三省堂編修所(2011)『デイリーコンサイス英和和英辞典第7版』三省堂出版
(13) コンデックス情報研究所(2008)『いちばんわかりやすい！介護福祉士合格テキスト’09年版』成美堂出版
(14) コンデックス情報研究所編著(2011)『詳解　介護福祉士過去5年問題集’12年度版』成美堂出版
(15) 福祉教育研究会(2004)『使いやすいホームヘルパー 2級講座テキスト第3章　介護学』日本教育クリエイト

参考資料

(1) 『一般社団法人　外国人看護師・介護福祉士支援協議会』

〈http://www.bimaconc.jp/〉(2011年12月7日)

(2) 『公益財団法人社会福祉振興・試験センター』
http://www.sssc.or.jp/kaigo/gaiyou.html (2012年4月23日)

(3) 『厚生労働省』
〈http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other07/index.html〉
(2012年4月23日)

(4) 『財団法人自治体国際化協会』
〈http://www.clair.or.jp/j/forum/series/pdf/j29.pdf〉(2012年4月23日)

(5) 特定非営利活動法人　トラストウイング
〈http://www.trustwing.org/ph_03.html〉 (2012年4月23日)

(6) 『日本語読解学習支援システム　リーディング　チュウ太』
〈http://language.tiu.ac.jp/〉(2011年12月7日)

(7) 第23回　介護技術(一問一答問題)

問題83 一人暮らしのEさん(80歳)は、屋内は伝い歩きをし、調理はいすに座って行っている。Eさんの台所の環境整備として、最も適切なものを一つ選びなさい。 1　調理台周辺に部分敷きのマットを敷く。 2　床材は滑りにくいものにする。 3　調理台は高めにする。 4　シンクは深めにする。 5　調理台と食卓の間は広く空ける。

第23回　介護技術(事例問題)

次の事例を読んで、問題92から問題94までについて答えなさい。
[事例] P市に住むFさん(85歳、男性、要介護１)は、下肢の筋力が低下し歩行に支障があり、室内の家具を使って伝い歩きをしている。調理と掃除の訪問介護サービスを週2回利用している。Fさんは知的障害のある娘(48歳)と二人暮らしであり、娘は日中、作業所に通っている。今回の訪問時にソファーで横になって動こうとしないFさんに声をかけたところ「最近、浴室で転んだ」と話した。きれい好きなFさんであったが、髪は汚れひげも伸びていた。Fさんは前回の訪問時と同じシャツを着ており、洗濯かごには娘の衣類が入っていた。また、ソファーの下に湿布や鎮静剤の薬の袋が落ちていた。

問題93 Fさんの状況を把握した訪問介護員の行動として、適切なものを一つ選びなさい。

1　介護支援専門員の訪問を待つように伝えた。
2　訪問介護サービスの「調理」を「入浴」に変更した。
3　事業所のサービス提供責任者に報告した。
4　介護内容の変更をP市役所に依頼した。
5　娘に家事を手伝うように指導した。